

K S K Q

エヌピーオー

NPOちゅうぶ 通信

つうしん

ねん がつごう
2025年4月号



By.AkieI

ゆうせいほごほうもんだいぜんめんかいけつむていききょうぎ 優生保護法問題の全面解決に向け定期協議
すずねいぜんこく 鈴音が行く！全国キャラバン ゴール！！
きょういく インクルーシブ教育プロジェクト報告集会
ばんぼくおおさか 万博 大阪ヘルスケアパビリオン内覧会
ねんぼうさいはくきかくふゆじん 2025年 防災1泊企画冬の陣
しんじんもりそのひろし ナビ新人スタッフ森園 宙さんインタビュー
しょうちゅうこうざさんか ピアカウンセリング集中講座に参加して
さんか スクラムのピアスクールに参加しました
だきようしゃかいうつた 妥協することなく社会に訴えていく

ちゅうぶを語るかたりじろくじょうともあき ちゅうぶを語る 理事 六條友聡
だんさせんたいこうりゅうかい 段差戦隊ジメンジャースクラム交流会
バターナッツクッキング
きとみちおへや 木戸通雄の部屋
マノスタ
きょうりょくかいひ 協力会費 カンパ
へんしゅうこうき 編集後記

ゆうせいほごほうもんだい ぜんめんかいけつ お ていききょうぎ はじ 優生保護法問題の全面解決に向けての定期協議が始まりました



しやざい せいふがわだいひょう
謝罪をする政府側代表

3月27日基本合意書に基づく全面解決に向けた第1回定期協議が、こども家庭庁、法務省、厚生労働省、文部科学省など関係省庁、原告、弁護団、優生連が出席し開催されました。

きほんごういしょ そ ぜんりよく つ やくそく 基本合意書に沿って全力を尽くすことを約束する

冒頭、原告の北三郎さん、弁護団から、被害者の声を聴き、歴史に向き合って、全面解決に全力を尽くしてほしいと挨拶があり、全国の4組の被害者から体験が語られ、こども家庭庁三原大臣から「執行責任について心から謝罪する。基本合意に沿って、誠実に対応する。共生社会実現に全力を尽くすことを約束する」と言葉があり、政府として各省庁政務官等が謝罪しました。

ひがいしゃ ほしょう とど すべての被害者に補償を届けるために

優生連を代表して、ろうあ連盟の大竹浩司さんから、地域に身近な相談窓口を作ることなど、高齢者であること、障害者でありコミュニケーションが困難であることを念頭におき、障害者団体と十分に相談して謝罪を届ける取り組みを進めてほしいこと、おおさか旧優生保護法を問うネットワークの利光恵子さんから、個別通知の実施や長期入院・入所者への情報伝達、医療機関・施設等の保有する資料収集・OB職員へのヒアリングの実施など被害者掘り起こしへの国の積極的な後押しを強く求めました。

さべつこんぜつ ゆうせいしそウ の こ 差別根絶、優生思想を乗り越えるために

優生連の共同代表でDPI女性ネットワークの藤原久美子さんから、人々の意識に根付いた優生思想を変えるにはパラダイムシフトの必要があること、国の行動計画は継続的なフォローアップすべきであることが指摘されました。また、共同代表で全国精神病患者集団の桐原尚之さんから、精神病患者の隔離が図られてきた歴史が指摘され、医療観察法の改正、長期入院の変革を求める必要について訴えがありました。

共同代表の山崎恵さんからはインクルーシブ教育の重要性、弁護団からは国連が求める政府から独立した人権機関の設置の必要性が述べられました。

しりようかん せっち さべつこんぜつ きほんほうせいてい 資料館の設置と差別根絶のための基本法制定

共同代表の日本障害者協議会(JD)藤井克徳さんからは、まとめとして、資料の発掘、収集、散逸防止、保存を行い歴史の確認と反省のセンターとしての資料館の設置、これまでの歪みを是正するために、①独立の人権機関の設置、②教育、就労、暮らしにおける過度な分離の是正、③優生思想の根絶を図るための基本法の制定を求めました。政府は、作業ワーキングの早急な開催と、毎年の継続協議を約束しました。

キリン福祉財団助成 合理的配慮啓発事業

～鈴音が行く！全国キャラバン～ゴール♪

あっとまーくえぬびーおーほ う じん

@ NPO法人ちゅうぶ

合理的配慮が義務化されたことを伝えるキャラバン

みなさんこんにちは！ナビの東です！今回は去る 3月28日（金）に開催した「キリン福祉財団助成 合理的配慮啓発事業～鈴音が行く！ゴール♪～ @ ちゅうぶ」の報告をします。

突然ですが皆さん、2024年4月から障害者差別解消法の合理的配慮が民間でも義務化されたことは知っていますか？今回の企画は全国自立生活センター協議会（JIL）の障害者差別解消法の合理的配慮啓発事業としてキリン福祉財団から助成を受けて行われたものです。きっかけはSTEPえどがわの聴覚障害当事者である中曽根鈴音さんが「私やりたいです！」と名乗り出てくれたことから始まりました♪

鈴音さんは全国の自立生活センターや民間団体など、北は北海道から、南は沖縄まで、合理的配慮が民間でも義務化されたことを伝える旅をされてきました！

全部で23か所！ちゅうぶをゴールに選んでいただきました！会場にはスタッフの本庄が作成した全国キャラバンマップが後ろに貼ってあり、鈴音さんは「これすごい！持って帰りたい！」と、とても感動してくれました！全国で展開されたキャラバンの写真、鈴音イラストを散りばめ、にぎやかな雰囲気でも鈴音さんをお出迎えしました♪

合理的配慮は同じスタートラインに立つための必要な調整

ちゅうぶ代表理事の尾上の挨拶から始まり、JIL副代表の井谷さん、JILを長年に渡り支援くださっているキリン福祉財団の大島さんから全国キャラバンの意義、応援する想いを語っていただきました。

鈴音さんからは全国各地での取り組みを紹介いただきました。また、合理的配慮の意味などについて、ご自分の例も交えながらわかりやすく解説いただきました。

私自身も右耳に難聴があるので、共感できる部分がたくさんありました。

合理的配慮に関しては、同じ障害でも困りごとによってそれぞれで、必要な配慮も人の数だけあるということが分かりました。合理的配慮は障害者のわがままでもなんでもなくて「同じスタートラインに立つための必要最低限の調整である」ということが、キャラバンを通じて少しで



もお かつ し も多くの方に知ってもらえたと思いました。

つた ことば はな ことば 言葉をちゃんと聴くこと

ちゅうぶ事務局 長の石田と赤おに作業所の西川和男さんより、ちゅうぶが取り組んできた情報保障についてをお話してもらいました。西川和男さんは脳性麻痺で車椅子の障害者ですが、難聴もあり手話を使います。施設入所中に耳が聞こえないことに気づいてもらえず、ちゃんと対応されなかったという話は何度聞いても辛かっただろうなと思います。和男さんは学習の機会を保障されなかったことで、言葉の獲得が多くはできませんでした。和男さんが理解できる表現を使うことが大事だと学びました。またちゅうぶには言語障害のあるメンバーが多くいます。言葉をちゃんと聞くこと、そして、みんなでその人の言葉を「通訳」し合ったり、スタッフがうまく間に入ったりして、コミュニケーションができるようにしてきたのがちゅうぶの日常的な取り組みだとあらためて思いました。



ひとりひとり ふ ぐうりてきはいいよ 一人一人のニーズを踏まえて合理的配慮をすること

鈴音さんと、ちゅうぶの松倉によるディスカッションは、それぞれの「聴こえ方の特徴」だったり、してほしい配慮などについてお話いただきました。鈴音さんの聴こえ方は、言葉が言葉として耳に入っていないため、補聴器などで声を大きくしても言葉が聞き取れるわけではないとのことでした。低い声の方が聞き取りやすく、高い声の方が聞こえないという点は私とは逆で、やっぱり人によって症状は違うんだなあと感じました。

松倉からは、通所内のメンバーさんも手話を使っていること、手話の練習風景なども紹介してもらいました。私も松倉にヘルパーとして入ってもらっているので、手話の勉強をしています。手話を覚えてほしいことを伝えるとハードルが高いと思われがちかもしれませんが、通所でやっている耳栓コミュニケーション体験、手話クラブなどを継続して行うことで、聴こえないことによる不便さを分かりやすく伝えていくことが大切だなと感じました！



最後に 2人の話を受けて尾上から「聴覚も当事者によって必要なニーズはバラバラ。そのニーズをちゃんと聞き取り、対話をして、合理的配慮を進めていくことが最も大切だ」とコメントがありました。

ぐうりてきはいいよ つた 合理的配慮について これからも伝えていきます！ 鈴音さん お疲れ様でした！！



私たちがこれからすることは、合理的配慮とは周りと同じスタートラインに立つための「必要最低限の調整」であることを、より多くの人に発信していくことだと思いました。「鈴音が行く」のゴールに、ちゅうぶを選んでいただいたことはとても嬉しかったです。鈴音さん、本当にお疲れ様でした&ありがとうございました！
(文責：東)

「ともに学ぶ」がインクルーシブ社会をつくっていることを明らかにする社会調査及び啓発事業 集大成の報告集会開催

全国自立生活センター協議会（以下JIL）の「インクルーシブ教育プロジェクト」が3年間の事業を終え、3.25報告集会（@参議院会館）を開催しました。事業の概要、報告会について紹介します。

●事業を行う経緯

全国自立生活センター協議会（以下JIL）では、「障害の有無に関わらず共に学べる環境をつくること＝インクルーシブ社会の形成の原点である」ということを基本とし、インクルーシブ教育プロジェクトチームを立ち上げた。本プロジェクトでは、障害当事者が子どもの頃から地域から分離されることなく平等な教育の機会を与えられるべきであるとの立場で、学校や本人・保護者、地域住民等への幅広い啓発と理解促進に努めている。

しかしながら、「通常学級に入学させたいというのは親のエゴだ」「他の生徒の勉強の邪魔になるのではないか」「勉強が追いつけないと本人がかわいそうだ」というような障害のある子どもたちが地域の学校で学ぶことを阻むような世間の声はいまだに多い。

このようにインクルーシブ教育に対するネガティブなイメージが大きい社会では、地域の学校で過ごしたいという人が、希望する就学先を伝えづらくなる。そのような状況が、分離教育を受ける障害児童生徒が増えている原因の1つとなっているのではないだろうか。社会にはインクルーシブ教育に対するネガティブなイメージがある一方で、地域の学校で過ごすことが出来てよかったという声も多く存在している。そこで私たちは、障害当事者や保護者のポジティブな声だけでなく、共に過ごした同級生や教職員の声も集め、その声を発信したいと考えた。

●本事業の目的

- ①障害のある子どもたちが地域の学校で共に学ぶことを阻むような世間の声に対して、ネガティブなイメージを払拭し、インクルーシブ教育がインクルーシブな社会につながっていることを伝える
- ②インクルーシブ教育の実現に向けて課題になっていることを明らかにし、課題解決に向けた政策提言や、学校現場での具体的な合理的配慮の整備を進めるべく働きかけをし、障害のある子どもを含めたすべての子どもたちの教育環境の改善に向けての一助となる。
- ③全国のCILによるインクルーシブ教育推進活動を促進する。

●3年間の事業計画

1年目：実際に障害のある人とともに過ごしてきた同級生(クラスメイト)、障害のある児童生徒を通常の学級または特別支援学級で教えていた教員の方たち、地域の学校に在籍していた障害当事者・保護者といったインタビュー対象者を発掘する。

1～3年目：対面またはオンラインでのインタビュー調査を行ないインクルーシブ教育の実態把握及びインクルーシブ教育実現のためにどんな課題があると感じたか等の情報収集を行う。

3年目：学識者等を交えながらインタビュー調査の分析を行い、インクルーシブ教育がインクルーシブな社会をつくっていることを明らかにすべく検証する。また、本調査結果をもとにインクルーシブ教育に関する政策提言を行う。

本事業終了後（3年後以降～）

日本においても障害者権利条約で示されている定義に沿ってインクルーシブ教育が促進されることを目指してJILインクルーシブ教育プロジェクトの活動を継続していく。

●集大成の報告集会

3月25日（火）に参議院会館で3年間の集大成である報告集会（JIL主催）を行った。忙しい中、各党の15名の国会議員、秘書の方々にご出席いただき、盛況だった。

まず、プロジェクトメンバーより、これまで行ってきたアンケート調査、インタビュー調査、そのすべてを分析した結果など、3年間の報告を行い、政府を代表して、文部科学省川崎麻悠子特別支援教育課課長補佐に「インクルーシブ教育の推進についての要望」をお渡しした。

引き続き、調査に協力いただいた5名の方（知的障害のある当事者・保護者、友人、当時の教員）に登壇していただき、「インクルーシブ教育への思い」をテーマにシンポジウムを行った。「学校は楽しかったか」「本人の障害のことをどう思っていたか」「学生時代の具体的なエピソード」「インクルーシブ教育への思い」など、興味深い話を聞かせていただいた。

私が印象に残ったのは、ご友人お2人からのお話だった。「Aさんを邪魔だと思ったことは一度もない」「大学生になった今でも必ず帰省したときにはAさんに会いにいつている」「インクルーシブ教育は、大人たちは予算がどうのとか人がどうのとかいうけど、やってから言えといたい」という言葉だった。

私は高校から特別支援学校に行っていたが、普通学校の小中学校でも友人関係はあまり良いものではなく、社会人になった今でも関わりのある友人はほぼいない。単に空間を同じにする教育ではダメで、共に生きるインクルーシブ教育を進めることで、小さいときからいろんな人がいるということを肌で感じて育つことができるのだと、実感した。もちろん教育場面のインクルーシブに留まらず、すでに大人になった人たちへのアプローチも必須だと感じた。

私はこの3年間でとても多くのことを学んだし、自分の経験を社会へ生かしていくことへの面白さが分かってきた。議員の方々に思いを伝えたり、文科省へ政策提言をしたり、私にとっては、とても大きなことを成し遂げることができた気持ちだ。自分への自信もついた。今後は、実際に学んだことを現場の先生や子どもたち、そして大人たちに伝えていき、さらにインクルーシブ教育を推進していきたい。詳細は報告書としてまとめてあるので声をかけてほしい。（文責：東）



いよいよ万博が始まりました

おおさか

大阪ヘルスケアパビリオン(大阪館)の内覧会

げんちけんしゅうさんか

アテンダント現地研修に参加しました

万博のユニバーサルデザインのガイドラインは、多くの障害当事者が参画して、オリパラ基準を超えることを目指し、改訂させることができました。各パビリオンは、このガイドラインに基づいて建築され、検査で基準に合致していることが万博協会によって確認されることになっています。

パビリオンの建設では、大阪ヘルスケアパビリオンで当事者参画が積極的に推進されました。東北福祉大学の石塚裕子先生を先頭に何回ものワークショップやグループワークが実施されました。そして、3月23日の開館式やアテンダントの18日座学研修、27日現地研修などにも当事者参画のもとに行われました。



UD推進チームと大阪ヘルケアパビリオンUD担当スタッフ

身体ポット測定で、2050年の自分に会う

身体状況を身体ポッド測定器に入って計測します。測定では、車椅子のまま入れるポッド(左勝手、右勝手あり)で、介助者と一緒に計測することもできます。65歳の私が測定すると、なぜか46歳と身体年齢を判定してくれて、25年後もどうやら元気らしい姿を確認させてくれました。



2050年の堀

テーマはリボーン(再生) 各ブースで学ぶことで元気ポイントをチャージ
様々な協賛企業ブースを回り、新たな学びで再生していくというストーリーです。

私の測定データによるお勧めフード提供など様々なブースがありました。
人間洗濯機(1970年大阪万博の出展に関わった技術者も一緒に改良)、i P S細胞(心臓再生で筋肉片が動いていました)も注目です。

楽しかったのは、V Rを付けて、ゲームの中に没入して、空を飛ぶものです。床にボルトで固定した椅子を外して車椅子のままで楽しめます。他にも人生ゲームも車椅子のままで席について一緒に楽しめます。モンスターハンター(A R拡張現実技術)については車椅子の予約コマが別に設定されているそうです。(床が動くため)

展示のパネルも車椅子で見やすい高さや角度になっていたのも、安心しました。



身体測定ポッド画面

視覚の移動のサポートと設備や展示物の案内にナビレンスを導入

大阪ヘルスケアパビリオン、日本館、万博の全体の園路、施設などにナビレンスという視覚障害者のサポートシステムが導入されました。これは、とても画期的なことだと思います。

施設・展示・サービス案内

NavilensやNavilens Goで、様々な障害や言語に対応した案内を提供することが可能です。
Navilens Goでは、動画や写真を登録することができます。登録した文字は自動翻訳で多言語になります。



←通路や会場内の設備、展示物などに貼ったタグをアイホンで読み取って、音声案内を受けることができます。

GPS不要！室内OK！リアルタイム位置案内

Navilens



神戸アイセンター
前3m…
右2m…
左1m…
とても近い

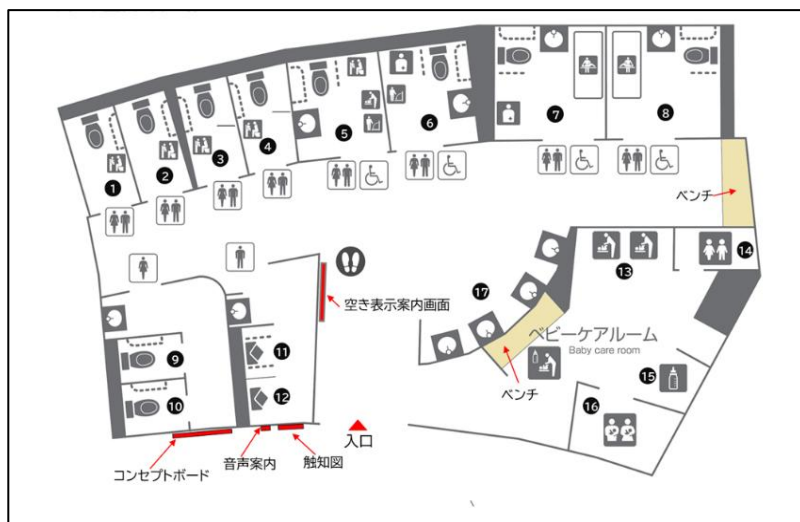


カームダウン・クールダウンルームが設置

精神障害や発達障害などで、高ぶった気持ちやしんどさを落ち着けることができるカームダウン・クールダウンルームが2部屋、設置されました。壁は柔らかい色、素材で、明かりも調整できます。車椅子で利用できる仕様です。公式なガイドラインに一定条件で設置が義務付けられたことは大きな意義があります。

みんなで創ったトイレ

グループワークで多様な障害者が出し合った意見が取りまとめられて、「みんなトイレ」が生まれました。オールジェンダートイレが当たり前になっています（一部に男子トイレ、女子トイレもあり）。一般のトイレも扉が幅広になっています。みんなが自然に互いのニーズを考えて譲り合えればいいと思います。



万博のユニバーサルデザインの当事者目線での評価と総括が必要

国家事業で障害者をないがしろにする前例を作らせたくないという想いで、私は万博の取り組みに関わってきました。UDガイドライン、サービスのガイドラインもバタバタで作った印象があります。しかし、多様な障害当事者の声を聴いて検討する場がつけられ、真剣に意見を聴いて取り入れてくださったことはとても意義深いことです。

このガイドラインを踏まえて、実際に他の者と同等水準のサービス提供を受け、共に楽しめたのか、当事者目線での総括と、大阪府福祉のまちづくり条例への反映の取り組みが必要です。（文責：ナビ 堀篤子）

ねんことし ぼうさい ぱくき かくふゆ じん 2025年今年もやってきた防災1泊企画冬の陣

へんしゅうこうき か おも つぎ ぼうさい ぱく き じ か
編集後記を書いたと思ったら次は防災1泊の記事を書くことになりました。

ふゆ き かく たんと まか
冬企画の担当を任せてもらい何をしたらいいのかわからないまま

がんばりました。ひと先ずは僕の参加した感想を下記に。

こんかい はじめて たんと として きかく さんか
今回初めて担当として企画に参加しました。

(さんかしゃしょうがいしゃ)
(参加者障害者)

もりぞの ほり あずま たかだ とま
森園・堀・東・高田(泊りなし)

(さんかしゃ)
(参加者)

たかで せきの ながつま きたおか あきやま さかぐち ひらぬま やすざわ きたおか さい き あんどう
高出・関野・長妻・北岡・秋山・阪口・平沼・安澤・北岡・齊城・安東・

おくやま しゃきようおぎの ちやうないかいちやうはりもと
奥山、社協荻野さん・町内会長播本さん、ヘルパー。

まずは集まってそれぞれの班に分かれてもらい、夕食作り。

もりぞの なべ たかだ なべ あずま なべ ほり なべ
森園鍋・高田鍋・東鍋・堀鍋

うえ みず た なべ とうにゆうなべ ちゅうかなべ まる
上から水炊き鍋・トマト鍋・豆乳鍋・中華鍋(丸ごとニンニク1個入り)

ここは楽しい企画をメインとして行った。何より継続が大事。



おくじょう まほうのかまどをもち
屋上では魔法のかまどを用いて
ちやうないかいちやうはりもと あきやま
町内会長播本さんと秋山さんが
ごはんば がんば
ご飯炊き頑張っていました(感謝)



き かく
メイン企画である

さい き ひさい しせつ かいごたいけん
齊城さんの被災しながらの施設での介護体験

きたおか じっさい ひさい ち ひなんじょたいけん
北岡さんの実際の被災地での避難所体験

どちらも内容が濃く考えさせられました。

こわ こと いけん
怖がらせる事になるのではないかと意見も

ありましたが生きている以上震災とは向き合っていく

もの。



じっさい おきた さい なに じゆんび
実際に起きた際に何も準備していませんでした。では意味がない。

けんじやうしゃ しょうがいしゃ ともに助け合いながら震災と向き合う必要がある。

たの ぜんめんでは意味がない。かといってしんどい全開でも続かない。

かんが ほんすじ
バランスを 考 えながら本筋からはズレないように。

すこ じっさいしんさい お とく たいおうほうほう ぜんたい かんが ため
少しでも実際震災が起きた時の対応方法を全体で 考 える為にも

ぼうさい き かく さんか あんどき かく よ おも
この防災企画参加 & 企画をして良かったと思います。





さいご 最後はそれぞれが集まりお互いの意見交換を行いました。

はんせいてん 反省点として

ね 寝る際のそれぞれの男性・女性の寝る位置の導線をしっかりと決めておいても良かったかもしれない。

(くるま 車いすを置く位置や布団を敷く場所、誰がどこに寝るか等)

もりぞの 森園さんが寝る際にヘルパーと頭の位置が反対でトイレの時にヘルパーを起こせなかった。

スタッフの頭がたまたま森園さんの方にあつたので良かったが

これが実際に被災した場合などを考えると叫んで起こさないといけない。周りの人の気も使ってしまうし何より本人が疲れてしまう。

ほか 他の参加者の想定をもっとシビアに。

よる 夜は寒かった。3階ではストーブを付けたままだったので寒くなかったらしいが

4階は安全面を考えてストーブを消して寝た為、寒かった。

もりぞの 森園さんダウンジャケットを被ってもらう等して対応。

じかい 次回や実際の被災時は、起きておく人などを交代制で見守り方法を考えても良いかもしれない。

こんかい 今回は脳性麻痺の森園さんが参加の為、そこまでの防寒対策の必要性は感じなかったが、筋ジスの人が参加となると、もっとシビアな寒さへの対応が必要

ちょうないかいちやう 町内会長さんと社協の人達が講演を見る前に帰ってしまう時間になったのが残念だった。

じかい 次回は 予め時間を伝えて、ぜひ見てもらえる時間を設けたい。

あさ 朝はみんなで集まり、昨夜の泊りの介護の話し合い。

じよせいぐみ 女性組はよく眠れたと聞いたが、男性は記述した通り

はんせいてん 反省点が多く見つかった。

それぞれ反省点が見つかり、良い企画だった。

なん 何より継続が大切。継続が一番 難しい。と聞く。今後もやり続けて見つかるものも出てくるだろうと感じた。



(ぶんせき 文責たかで)



自立生活センター・ナビ
からのお知らせ

ナビ新人スタッフ森園

宇さんにインタビュー！

名前:森園 宇(35歳) ※年齢は取材日3月26日現在
生年月日:1989年4月25日
障害名:脳性マヒ
趣味:サッカー観戦 公園で、ゆったりすること
自立歴:グループホーム(3年間)、一人暮らし 11年目



山下:2024年11月から自立生活センター・ナビパートスタッフ(週2日)として勤務していますが、今の気持ちはどうですか？

森園:ちゅうぶ歴は 16年ぐらいになるんですけど、生活介護では工賃あるけど、雇用してもらって働くということが初めてで、わからないことが多くて、今までと違ったドキドキ感があります。

山下:ナビでは、どんなことをしていますか？

森園:今は、研修が主なので、障害者運動の歴史や自立生活センターとは何かという紹介ビデオを観たりしています。あとは、ちゅうぶのフェイスブック記事を書いて発信しています。(障害者自立生活センタースクラム(大阪市大正区)主催のピアスクールに参加した記事とか)あと、東住吉区のクリニック調査(入り口が入れるかどうかなど)も、はじめています。

山下:障害者運動の歴史を見たり聞いたりして、考え方の視点が変わったことありますか？

森園:当事者から声をあげる大切さや介護制度とか障害者の制度はどうやってできたのか、なんとなく経験として知ってた部分もあるけど、改めてビデオを観てナビの当事者スタッフと意見交換していくと自分の中で振り返る良い機会になりました。



クリニック調査中。インターホンが押しやすいかチェックしました。

山下:愛知県の自立生活センターが主催するピアカウンセリング講座に参加してどうでしたか？

森園:いろんな障害者や年齢層の方がいて、生き方とかもバラバラやったりしたので、いろんな考え方に触れられて自分の中で考える幅が広がったかなと思いますね。ピアカウンセリングだからこそ当事者同士話せることもあるので良かったです。気持ちがすっきりするし、気持ちの整理が出来るんだなと思いました。

山下:これからやってみたいことはありますか？

森園:地域の人が集まれて、なんでも話ができる場を作りたいと思います。例えば喫茶店とか。それと、今までやってきた歩道と車道の段差取り組みにしても僕自身も好きやし、ものすごく大事なことで、続けていきたいなと思います。障害者運動はやる人がいなくなったら終わってしまうので、ちゅうぶの先輩障害者についていきたいし、一緒にやりたいという思いです。

ピアカウンセリング集中講座に参加して感じたこと

今回は、愛知県にある、NPO法人岡崎自立生活センターぴあはうすと自立生活センター十彩の共催で開催されたピアカウンセリング集中講座(以下:ピアカン)に参加しました。参加者は13名でした。ナビのパートになって、初めての大阪以外での企画に参加だったのでドキドキわくわくの気持ちが入り混じっていました。名古屋までの行き方や時間などを考えていて、講座の開始が12時30分だから1時間前には現地に着く計画を立てていました。

いざ当日を迎え朝6時過ぎに自宅を出発して新幹線の少しの遅れもありながら、名古屋駅では少し迷ったり、名古屋鉄道の名古屋駅では、車椅子の人が駅員さんを待つ、大阪にはない四角で囲まれたスペースがあったりと、新しい発見も色々ありました。そんなこんなで、計画していた時間通りに到着するという奇跡!自分でもさすがだな、と自画自賛しました。僕が参加したのは、ピアカンの基本と大枠を知りたい人向けのものでした。今回は2泊3日で様々なテーマについてセッションをしました。ホテルは自立生活センター十彩の方に紹介いただいてバリアフリールームに泊まることができました。



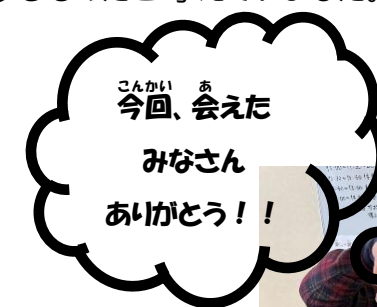
●ピアカンを受ける前は？

受講したきっかけは、ナビのスタッフからの勧めもあり、案内の説明を聞いたら自分でもこれから先ナビで働いていく時に大事ななと感じたので、受講を決めました。ナビに入りたてということで、不安もありましたが「やってみたい!」という気持ちが強かったです。僕のピアカンのイメージは、話を聴いてもらいアドバイスを受け、心のモヤモヤを解消するものだと考えていました。

●ピアカン講座を終えて

しかし、実際には違いました。ピアカンには色々なルールがあります。例えば、障害を持つ人という対等な立場で時間を分け合って話を聴き合う。「セッションで話をされたことは秘密が守られる。」「アドバイスはしない。」「相手の意見を否定しない」というものです。なので、安心して普段、人には話せないことも自分の気持ちを話すことができます。

今回のピアカン講座では、講座の中に『感情の解放』というテーマがありました。いろいろなテーマで時間の限り話すことで、普段は無意識に押さえ込んでいる思いに向き合い、出し切れるような感覚になりました。さまざまな立場の人たちと関わることができていろいろな価値観や考えに触れることができて良い経験になりました。



(文責: 自立生活センター・ナビ 森園 宙)

スクラムさんのピアスクールに参加しました

リアルな実体験を共有できた！

青おに所属の島袋愛子です。

ピアスクールには将来当事者を支援する仕事がしたい、その為に福祉の知識を得たい、仲間がほしいという思いで参加させて頂きました。

まず、中途障害者の自分には経験のない、障害当事者の生い立ちと生活史にショックを受けました。講義の内容では、合理的配慮を求めるロールプレイがとても勉強になりましたし、実際に外に出て行ったフィールドワークでは、自分にはない障害をお持ちの方への配慮の必要性を感じられました。

ILPはずっと続くもの

また、ある講師の方がおっしゃっていた、“ILPはひとり暮らしする為のものではなくずっと続くもの”という言葉が特に印象に残っています。始めは緊張もありましたが、回を重ねるにつれてメンバーさんとのコミュニケーションが増え、グループワークも楽しめるようになりました。交流しながら、メンバー同士、リアルな実体験を共有し合えた事は、貴重な経験をさせて頂けたと思っています。

未来の自分に向けてのコミットメント

最終日には、未来の自分に向けて、全員でコミットメントを行いました。全8回のメンバー達の想いの乗った言葉と空気は圧巻でした。ピアスクールに参加でき、沢山の自立生活者のリアルな話が聴けた事、このメンバーと仲間になれたことは私の宝です。

初めての一人暮らし 前向きに気持ちをリセット

私事ですが、4か月のピアスクールの期間中に、施設をでてグループホームに入居し、一人暮らしを始めました。このタイミングでピアスクールに通って、先輩方の経験談を傾聴と質問させて頂ける機会があったことは自分にとって、とても有難いことでした。初めての一人暮らしで、理想と現実のギャップにストレスを感じながら参加した日もありましたが、参加する度に気持ちを前向きにリセットできました。これからも、これまでお世話になった支援者の方々、日々の生活でお世話になっているヘルパーさんへの感謝を忘れず、自立生活を送っていきます。たくさんの出会いと学びを有難うございました。

島袋愛子



ちゅうぶの参加者の絆もできました。



だきょう しゃかい うった 妥協することなく社会に訴えていきたい

障害者自立生活センタースクラムのピアスクールでは障害者の現状や過去、多様性、障害者運動など様々なことについて学びました。

1日目のテーマはC I Lについてで、講師は自立生活センターライズの三井孝夫さんでした。三井さんからは生活史、C I Lの役割・地域での活動などについてお話を聞きました。自立生活を実現することが、自立生活センターの大きな役割だと分かりました。

2日目のテーマは歴史、今の障害者の暮らしがあるのは、壮絶な時代を乗り越えて活動してきた人のおかげだと思いました。講師は自立生活センターもりおかの安積遊歩さんでした。講義では、障害者が自立し始めた時代に介助者が見つからず亡くなった方の話や、貨物用エレベーターしかない時代に乗せてほしいと頼むと「自分は社会のお荷物だと言え」と言われたことなどを聞きました。安積さんの障害があっても良い言う考え方もとても刺さりました。

3日目のテーマはピアカウンセリングは体調不良で行けませんでした。

4日目のテーマは多様性と人権についてで、講師はセクマイ障害者活動家の植木智さんでした。植木さんは脳性麻痺者でトランスジェンダーです。障害者差別とセクシャルマイノリティへの差別の複合差別を受けてきたことを話されていました。スクラムの尾濱由里子さんからも出産時に受けた障害者差別と女性差別の複合差別について聞きました。

5日目のテーマは合理的配慮についてでした。この日ははじめに、スクラムの尾濱さんと酒井建志さんが経験した差別事例のロールプレイをしました。これらの差別の原因は、合理的配慮の不提供が差別にあたるという認識がないことだと思いました。この日の講師は自立支援センターぱあとなあ妹尾美紀さんでした。講義では知的障害者も自己表現方法が違って、普通の人なのだということを学びました。もちろん配慮は必要ですが、今後知的障害者と関わる時は構えないで一人の人間として接していこうと思いました。

6日目のテーマはバリアフリー、障害者の権利のためには、諦めないことが重要だと学びました。講師はナビの堀篤子さんでした。前の職場では諦めず働きかけ続けたことで、障害者も人事異動や出張が出来るようになったと話されていました。その後のフィールドワークでもバリアフリーのために発信し続けなければならないと思いました。

7日目のテーマはI L P、まず、自立生活についての講義がスクラムの前田蓮さんからありました。大変なことはあるけど、好きな時間に外出できたり、家事をするようになってスキルアップできたり、親のありがたみが分かたり良いことが多いと話されていました。これらを踏まえたうえで、一人暮らししてよかったと話されていました。次に、I L Pについての講義がスクラム酒井さんからありました。その後、グループでI L Pの案を作りました。僕たちのグループでは、お金の管理、料理、介助者を集めることを経験するためにキャンプするという案になりました。

障害者運動の向き合い方を学んだ

複合差別や知的障害といった自分が知らなかったことや、障害者運動への向き合い方など様々なことを学べたのでピアスクールに参加して良かったです。僕も妥協することなく社会に訴えていきたいと思いました。



(障害者活動センター赤おに 杉原大地)

しゅうねん さい
ちゅうぶ 40周年に際して

これまでのちゅうぶ、これからのちゅうぶを語る

じむきょく り じ
～事務局・理事のインタビュー だい 10 弾 だん ろくじょうともあき り じ
六條友聡(理事)

いばらぎし と も い じょうれい しっぱい まな
茨木市での共に生きる条例づくり。失敗から学んだこと

※編集部：石田、吉田、池田

へんしゅうぶ がいぶ り じ
編集部：外部理事のインタビューとしては最後になります。ちゅうぶの理事は2014年からで11年目。代表理事の楠さんが亡くなって代表は尾上になりましたが、他の障害者理事も探していた時です。もともと知的障害者の団体所属ですが、最近では交通アクセス関係での動きが多いと思います。万博や関西空港リノベーションなどでも動いておられます。

ろくじょう
六條：もともと障大連の運営委員でした。理事は尾上さんの推薦もあったのかなと思います。

へんしゅうぶ ろくじょう
編集部：六條さんの障害について教えてください。

ろくじょう せんてんせい
六條：先天性ミオパチー。難病のひとつで神経系。筋肉委縮や筋力低下を招く。以前は杖歩行だったけど、今は無理。呼吸がしんどくなってきました。

でも、生まれてすぐは脳性まひと思われていました。小学校でだんだん背中曲がってきて「脳性まひの動きじゃない」と言われて。ひょっとしたら筋ジス？と言われて豊中の刀根山病院へ診察へ行った。中二か中三の頃に二週間入院して、筋肉の一部を取って検査して、そこで初めてミオパチーが判明した。本来はもっと入院するところだったが

なかつせい し がく いん が わ にゅういん ふたしゅうかん
中津整肢学院側が「入院は二週間まで」となっていたのですぐに中津に帰った。

しょうがくせい のうせい おも
小学生まで脳性まひと思われてた

へんしゅうぶ しょうがくせい のうせい い
編集部：小学生までは脳性まひと言われてたんですか。ミオパチーに変わってどんな感じでした？

ろくじょう
六條：あんまり変わらない。4歳の時に、うちの母が膠原病で寝たきりになって、生活できなくなって、自分は施設へ入った。当時は地域の制度もなかったから。中津養護学校もありました。

へんしゅうぶ しゅじゅつ くんれん おや
編集部：手術や訓練のためではなく、親が介護できないから入所したんですね。

ろくじょう せなか ま
六條：そう。でも、背中が曲がってきて手術が必要と言われたが、「治る見込みは50%」と言われて、家族会議で「それならイヤ!」と言った。80%、90%なら分かるけど。その施設で手術してもうまくいかないケースは



見聞きしてたし、先生は手術好きな人だった。めっちゃ治ったって聞いたことない。やらんで良かった。中津には中三まで、11年入ってた。

編集部：結構長かったんですね。

六條：ちゅうぶのTさんが一つ上、Oさんが5〜6 こそ上。

しょうがいじ にゅうしょし せつ 障害児の入所施設は…

編集部：施設はどんな感じでした？

六條：色んな先輩がいて、こき使われてた。アンパン買ってこいや！みたいな。週末は実家に帰宅してたので、おやつ持ってる？とか。お父さんの送迎。家帰っても友達もおらんし、兄も遊びに出ちゃって、僕は一人でゲームしてるだけでつまんない。施設帰ったら職員うるさいし、時間守らなアカんし。唯一発散できるのは、気の合う友達と喋ったり、下の年代の子をからかったりいじったり。さらに重度の子をいじめる構造ってのはあった。いじめることもいじめられることもあった。いじめる、いじめられるのちょうど間な層かな。部屋は6人部屋。カーテンは一応あったけど、開け閉めする習慣はなかった。何してるかすぐわかる。男女は別。

学校は建物は分かれてる。堺の分校が独立して中津養護学校になった。

施設がイヤっていうのは今の運動の基礎になっている。



編集部：施設で一番嫌だったの何ですか？

六條：低学年の時。自分で自由にできない中で職員にやってもらわなアカんことがいっぱいあって、顔色をうかがわなアカんし、先輩にいじめられるし、ストレスあった。高学年になって動けるようになって、逃げ方が分かってきて、この職員機嫌悪そう、逃げるとか。

編集部：トイレ、着替えは自分でできた？

六條：高学年になってようやくできるようになった。低学年では全然できなかった。

編集部：それはリハビリの効果？

六條：多少はあった。僕はリハビリ嫌い。リハの先生が来るのが嫌で、ベッドや机の下に隠れていた。でも見つかってリハをする。

編集部：隠れるのがリハビリ？（笑）

六條：なんでリハビリやるのか、意味わからなかった。

編集部：脳性まひと違いますよね。

六條：当時は脳性まひだと思われていた。でも杖で歩けるよういになってきたからね、そこは脳性まひとは違うよね

編集部：施設を出て夜間高校に行ったんですよね。出れたのはなんでですか？

六條：僕の一つ上の先輩が途中で入所して、施設を退所して、近くの夜間高校に行くという事例があつて。高校は義務教育じゃないから自分で選べる。これだ！って思っ、僕も高校は夜学に行きたいと周囲の職員にアピールしていた。でも相手にしてくれなかったから家族に言っ、ほんまに考えてくれた。中学三年から受験勉強を始めた。

編集部：先輩は脳性まひの人？

六條：いや、違う。軽度の人で動ける人。今どうしてるかは知らないけど。

編集部: だんだん大きくなって、介護が必要なくなってきたからというのも大きいのか？

六條: そうだね。あと、母親が在宅で、だいぶ安定してきたから、行けるんじゃないかってなって。

家は手すいなしの階段

編集部: 家はバリアフリーでしたか？

六條: ううん、5階建ての団地の4階、エレベーターなし、階段手摺なし、それがリハビリになっていたのかな。普通の団地。ハアハア言いながら4階まで上げてた。バリアだらけ。その時は親を恨んだ。なんでこんなところに住んでんの！？

編集部: そうか、すごいな、たいへんでしたね。

定時制高校での出会い

六條: もともとはうちの親は社宅に住んでいた。で、そこを出て団地を買った。その時は元気だったから。難しかったら這って上がった。夜間高校は今でもある。

編集部: うちでもKさんとか、Tさんとか、結構定時制高校に行ってた人は多い。その時も夜学に障害者いた？

六條: いたいた、夜学は4年で卒業だけど、ぼくが一年のときに4年の先輩とか、僕の下にも。エレベーターなかったし。しんどかった。2階で階段なくて、車いすの人は1階。

編集部: 昔だったら高校で生徒会とか、部落解放研究会とか人権系のクラブがあったけど。

六條: あった、僕も誘われたけど、嫌だったから断った。

野球が見たかったから行ったけど、打球とかが危なくてやめた方がいいと。

それで、時々でもいいからおいでって障害者

問題研究クラブに言われて、顔を出すようになって。

それでも今は辞めたけど「ぼぼんがぼん」のNさんとかOさんとかがいた。

編集部: 夜間高校に行ってたのは結構大きかったんですね。障害者問題研究クラブってなんであったんですか？

六條: 障害者でいじめられそうになった人がいて、Nさんとか先生がクラブを作ろうってなった。

僕の学年にも車いす、自閉症とか結構障害者がいて、クラブに参加した。その下に



もいた。

編集部: クラブで何してたんですか？

六條: 出かけたり、作業所見学行ったり、遊んだり、合宿行ったり、先生の家でお酒飲んだり（笑）

その時はそれで大丈夫だったのよ。夜間高校で二十歳超えた人も多かった。先生が問題意識を持ってた。

ながい長居スポセンでの電動サッカー

編集部: 電動サッカーやってたと思いますが、初期の頃ですか？

六條: Oさんが電動車いすでサッカーやるから、おいでよって誘ってもらって。

ながい長居スポセンでローリングタートルって亀のマークのサッカーチームがあって。結構強か

った。

Dさんっていう脳性まひの人がいて、その人とお姉さんとスポセンの人が作ったって言われている。そこに誘われて入った。

職業訓練、手当もあった…

高校卒業して、職業訓練校に入った。パソコンの勉強して月13万円くらい手当もらえる。

摂津にあって。

編集部：JEEDですね！関係あるのかな。（JEED＝独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構）

六條：関係あると思う。法定雇用率を守ってない企業から罰金をもらって職業訓練校の運営などをしてます。手当は結構おいしくって、実家から通っていたから余計にお金が貯まるし。

卒業して印刷の会社に入った。箕面市。でも全然楽しくなくて。特許関連の書類をパソコンで作る仕事だったんだけど、僕、本を読むの慣れてなくて、漢字とか苦手で。入力をしなくちゃいけないんだけど、しんどかった。難しい漢字ばかり。3日、4日で90枚とか入力せなあかんけどできなくて辛かった。で、仕事を辞めてアメリカに行くことになって、知人の知人がいる、パワーサッカーを観たいとなって。

アメリカ、バークレーへ

六條：アメリカ行っただけど、電動車いすサッカーチームは遠征でいなかった。サンフランシスコ、バークレー。そこでバリアフリー、歩道・お店がフラットだったりして、「障害者が店を訴えたりすることができる」って聞いて「いい国やな！住みたいな」って思った。10日間くらいおった。英語は喋

られへんよ。でも、知り合いが半分くらい同行して通訳してくれてた。自分だけだと雰囲気とか、ジェスチャーとかで通じた。電子辞書とか持って行かされて、確かに助かったけど、雰囲気でなんとかあった。アイスコーヒーって言ったら水が出てきたけど（笑）ディズニーランドとかは興味なくて、街を散策してるのが凄く良かった。ダスキン研修も申し込んだりしたけどあかんかったりして、ぼぼんがぼんのNさんから「お前おもしろいなあ。暇やったらおいでよ。一日500円くれるで？」と誘われた。

編集部：ぼぼんがぼんが始まったころですか？

六條：NPOとして始まるころかな。作業所ぽかぽかはすでにあって。その頃自分はまだ杖だった。作業所までは三輪自転車で通ってた。大人用、後ろにカゴついてるやつ。通える距離だったし。

ハンバーガーの食べ方が違う！？

編集部：話戻りますが。アメリカで街歩いてるだけで楽しい。日本とは違う解放感とかあったんでしょうか。どんな感覚ですか？

六條：インパクトあったのは、ハンバーガーとかサンドイッチ食べる時。日本だとキレイに食べようとする。向こうだと、散らかって食べてる、自由！！衝撃的だった。別にええんや！？って。

編集部：こうあるべきの幅が広がるって感じ？

六條：そうやなー、けっこう清楚な感じの人がボロボロさせて食べてる。日本にはない。

編集部：日本人はきちっとしてるよね。向こうのハンバーガーでかいよね。

六條：でかすぎんねん。でもハンバーガー屋で声をかけたらみんな対応してくれたし、住

みやすそうだった。なによりも移動しやすい！

地下鉄、バスには乗らずタクシーだけだったけど。バスや地下鉄は怖いイメージあった。フィッシャーマンズワーフも、夕方になったら雰囲気怪しくなってきた、タクシーに乗った。警察に頼んで。

編集部：確かに場所によったら怖いかも。

六條：単純に興味あって行っただけやけど。

編集部：体当たりのコミュニケーションは、日本にいた時と違った？

六條：アメリカに行けた！って喜びが大きかった。22～23歳くらいの時か。職業訓練校のお金や失業保険もあって余裕あって、飛行機も一人で乗った。宿は向こうの人におさえてもらった。

編集部：アメリカに行ったのが大きかったんですね。

六條：大きかった。

編集部：日本はその頃階段だらけ？。

六條：ひどかった。だから余計にアメリカに住みたいっていう気持ちが強くなって。

ぼぼんがぼんに行ったら、お金の計算をする。僕EXCELが使えるから、ヘルパー派遣の資料とか手伝っていたら、「人手が足りないから」って、作業所の工賃で派遣コーディネーターの作業をさせられてた。1日500円で。Oさんに「僕アメリカに住みたいねん」って言ったら「それやったらまず茨木を変えてみろ、地元も変えられないのにアメリカに行っても何もできないだろ」って言われ、茨木でやり始めた。

交通問題に取り組むきっかけは？

編集部：派遣コーディネーターをしていたのが交通問題に取り組むようになったのはなん

でですか？

六條：通信枠があって「ろくちゃん何か記事書けるやろ」って言われたのがきっかけ。書くことないって言ったら、街に出てネタを見つけてこいって言われて「ろくちゃん街に行く」を書いた。次第に毎月書くことになったけど、最初は嫌で嫌で。自分の困りごとを書いていっただけやったけど、だんだんバリアフリーを考えるようになった。

もともと「しよう会」では行政交渉をしていたが、動かなかった。で、バリアフリー連絡会を作って、バリアフリー基本構想を作るってなって、バリアフリー調査やまちづくりなど本格的にやるようになって、活発になっていった。【しよう会＝地域・校区で「障害児・者」の生活と教育を保障しよう茨木市民の会】

編集部：茨木市を超えて活動していったきっかけは？

六條：Yさんがきっかけかな。近畿運輸局の移動円滑化評価ネットワーク会議があって、Yさんが委員を変わりたいとになって、そのあとに僕が委員に入らせてもらった。茨木市の動きを知ってはったから。2018年には評価会議になって、そこからずっと委員。障大連の交通部会ではない。部会はSさんとのつながり。いつのまにか茨木市以外で動くようになってた。茨木市の条例づくりではいろんな人にお世話になった。その辺から、いつの間にか条例づくりなんかに関わるようになって。

茨木市での条例づくりに関わる

編集部：条例って何の条例ですか？

六條：「茨木市障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例」 障害者差別

解消法を踏まえた条例づくり。

編集部：当事者としては他に誰がいたんですか？

六條：車いす利用者の人、視覚障害、聴覚障害の人など色々いました。そこからいろんな人を巻き込んで行った感じ。最初は1人でやっていったんだけど、それじゃあ通用しないことが分かった。いろんな人を巻き込んでいく方向に切り替った感じ。

編集部：ぼぼんがぼんって知的障害者の団体ですが、他の団体の人も巻き込んで、やってきたんですね。それってアメリカに行った影響がずっと続いているのでしょうか。

六條：どうかなあ。でも、最初に茨木でやった時にうまくいかへんかった。障害者施策推進会議に僕が入って、その時に長期計画っていうのがあって。その時に「本人が望まない長期入所は差別だ」って大阪市の計画にはあって、それを茨木市の計画にも入れてほしいと、僕は一人で言ってた。周りの人はどんびきしていた。でも翌年に部長から「委員から外れて欲しい」って言われてしまった。出る杭が打たれ過ぎてどうしようもなかった。

8団体連絡会はもともとあって僕が引き継いだけど、IDF（茨木市障害フォーラム）どうするか。8団体連絡会っていうのがあって、茨木市から補助金をもらっていたんだけど、茨木市からお金をもらえなくなってしまっって解散するかどうかという話になったときに、横のつながりが欲しいってなって、大阪にはODFとかもあった。大阪の差別解消法のガイドライン、条例ができたから、茨木市も条例に向けて動こうと思った。

長期入所は人権侵害？

編集部：「長期入所は人権侵害」っていうのは茨木市にはハードルが高かった？

六條：そうですね、施設関係者とかもいたから。一緒に作り上げていく関係に変えた。

編集部：ガンガン意見言ってたけど、外された。茨木市では特に横のつながりが大事になってきたんですね。六條さんは関係づくりが上手ですね。

六條：うまくなった。行政や事業所とも仲良くせざるを得なかったのよ。僕は最初はガンガンやる交渉ができるのを目指してた。

編集部：でもそこから、方向性を変えられたのがすごいですね。

六條：僕も相当落ち込んだ。でも運動の長老でSさんっていう、元小学校の先生に言われたのも大きかった。「出る杭打たれるんやったら、思い切って出過ぎた方がええんやで」って。で、出すぎるにはどうしたら良いかを考えた。

でも条例を作るのは一筋縄ではいかない。議員さんの力が必要。与党側の人をちゃんと押さえないと、過半数取らないと条例はできへん。与党の人と仲良くする方法を考えるようになった。例えば選挙の時に政策活動の報告会に頻繁に顔を出したり。その党派のポイントになる人と関係作ったり。次に市長。政策の意見を聞く場に顔を出して、入院時のコミュニケーション制度について話したら、市長の政策に入った。

市長と直談判

編集部：それはすごい。かなりマニアックな制度ですが、制度として実現したんですか。

六條：そうです。それとJR茨木駅の東口のエレベーター。地下駐輪場と上を繋ぐやつがあるんだけど、1台だと通勤ラッシュ時に

全然使えない。広場の改修工事があった。それを解消するために、もう一台エレベーター設置して欲しいって市に頼んだけど全然動かない。で市長になる人に直談判したら、次の日に動いた。市の人が「市長から言われたので」って。

六條：お金を出したのは茨木市。あつという間に付いた。ニーズは高かった。鶴の一声。

編集部：この話を障大連セミナーで聞いて、すごい痛快でした。

六條：ポイントは、政治に絡むか絡まないか。そこに絡まないと政策は動かへん。

編集部：それはまちづくとか、障害者が生きやすい社会にするというモチベーションがあるわけですね。

六條：その時は、条例を作りたいから。

いばらき 茨木市の「おにくる」って？

編集部：茨木市の「おにくる」という遊び場みたいな施設がありますが、

六條さん関係していますよね？（茨木市のキャラクター＝茨木童子。「鬼でも来なくなる」でおにくる）

六條：複合施設。大ホールや市民活動センターがあったり。障害者や高齢者は入ってない。市民会館や子どもの施設を合わせたような。去年にできた。バリアフリー関係で意見交換しました。

EVとかトイレ、案内表示をおさえとかないといけない。閑空リノベーションでもやってきた実績を活かした。最初は15人乗りのEVを二つ付けることになっていた。でも色々な人が来ることを考えたら、人が倒れた時にストレッチャーが乗るくらいの大さのEVにしなければいけない。それを言ったら「そりゃな」ってなって、29人乗りのEVが2つ付



いた。車いすなら6台入る。言い方を変えた。車いすが乗らないと言うだけでは動かない。ストレッチャーの話をして動いた。昨日朝日新聞の本社ビルに行ったら、大きなEVが8台あった。人が動く場所には大きなものが必要だって改めて思った。理にかなってる。

トイレにしてもベビーチェア、ベッドやユニバーサルベッド（大人用介護ベッド）がないといけないとか、設計段階から色々意見をしてたら意外と付いた。

点字ブロックだけは中途半端にしか付かなかった。カウンターのアテンダントに案内させるという話になった。アテンダントはサントリーの工場が大山崎にあって、指定管理者。そのスタッフが来ることになった。その人たちにバリアフリー講習を受けてもらった。IDFの当事者や知的発達の親の会や、うちの法人の事務局長とか色々な団体に研修してもらった。

編集部：サントリーのビール工場の見学に行った時に、体調悪くなって車いすで運ばれた経験がある。車いすの扱いが上手だったな～って思い出しました。2004年くらいのちゅうぶに来る前の話。

わか 若い障害者にどう伝えるか？

編集部：茨木などの若い障害者についてはどうですか？

六條：若い仲間にも期待していますが、期待しすぎ、伝えすぎでうまくいかなかった経験があります。伝え方は難しいですね。

ヨルダンってどんな国？

編集部：ヨルダンに行った感想をお願いします。ヨルダンって中東でしたよね。

ろくじよう ちゅうとう しょうがいしゃけんりじょうやくひじゅん
六條：中東。障害者権利条約批准している
んだけど、障害者が町にいない。施設にいる。
いすらむ きょう しょうがい しょうがい
イスラム教は障害をもって生まれたのは、
ぜんせい ぜんせい ぜんせい
前世で良くないことをしたからとか言われて
いるから、人に迷惑かけたらあかんとかで、
しょうがいしゃ まち しょうがいしゃ しょうがいしゃ
障害者が街に出てない。歩道はめっちゃ段差
あったり。ピアカン、爆撃で中途障害者に
なった人が多くいて、JAICAがやったんやけ
ど、ぼく う 生まれつきの障害者と違う。で、ヨ
ルダンの人たちには、「前世が良くなかったか
らこうなったんだ」って言われた。イスラム
の教え、言い伝えだから、逆に楽だなんて思
った。生まれながらの障害者は施設にいたみ
たい。今はわからないけど。宗教は独特。
ベースが違う。アメリカとも全然違う。

えあーてい LRTに、はまっています！

へんしゅうぶ へんしゅうぶ
編集部：ところで、次に行きたいところは？

ろくじよう い とちぎけんうつのみや えあーてい
六條：行きたいのは栃木県宇都宮のLRT。

もともとないところに路面電車を作った。

あと広島のLRT。富山県の見てはまった。

【LRT=Light Rail Transit(ライトレール
トランジット)の略、路面電車の進化系】

へんしゅうぶ へんしゅうぶ
編集部：好きな食べ物？

ろくじよう ろくじよう ろくじよう ちゅうり
六條：いろいろある。魚も肉も好き。調理は
ヘルパー。ヘルパーには細かく言いすぎると
入れなくなるから、魚か肉かでハードル下げ
てる。朝は介護保険の事業所の年配の主婦層
のヘルパー。任せても大丈夫。夜は障害者
関係の事業所(大阪市、高槻市、吹田市)。

ひとこと ちゅうぶに一言・・・

へんしゅうぶ へんしゅうぶ
編集部：最後に、ちゅうぶに期待するところ
って何ですか。

ろくじよう ろくじよう ちゅうぶ ちゅうぶ ちゅうぶ
六條：ちゅうぶのこれからの展開は楽しみ、
期待している。運動の部分はみんなとの団結
を大切にしたい。一方で事業の収支の
ところを中長期的な視点も含めて、うまく意識
できてる団体はそうない。このバランスは難
しいけど、保っていくのがすごいと思います。

へんしゅうぶ へんしゅうぶ
編集部：今日はお忙しい中、インタビューど
うもありがとうございました。

Interview



茨木障害フォーラム 事務局長
六條友聡さん

障害があるから 特別扱いしてほしいわけではない

私は、身体の筋肉が萎縮し筋力が低下する先天性ミオパチーとい
う病気で、電動車いすに乗って生活しています。普段は、障害のある
人の社会参加の促進、啓発等の活動を行っていて、「障害のある人
もない人も共に生きるまちづくり条例」の制定にも携わらせてい
たできました。制定以前から私は、セミナーを開催して条例の必要性
を訴え、市にも希望を伝えてきました。障害者施策推進分科会にも
参画し、専門部会や障害者団体へのヒアリングを行うなど、深く関
わったこともあり、条例が制定されたときは本当にうれしかったです。

条例は、私たち当事者の想いがしっかりと反映されているものにな
っていると思います。中でも民間事業者の合理的配慮の提供を義務
化したことは画期的だと思います。これまではバリアフリーが進
んでおらず、入りにくいお店はあきらめていましたが、配慮して
いただけるお店が増えれば、色々な所へ行けるという楽しみもき
っと増えます。単に「やりなさい」というだけでなく、助成金も併
せて設けたことは、民間事業者の理解も得やすく、バリアフリーな
に取り掛かりやすいのではないのでしょうか。

私たち当事者は、障害があるから特別扱いをしてほしいわけでは
ありません。障害のある人もない人もみんな一緒に気持ちよく暮
らせるようになることを願っているのです。条例施行から1年が経
ちましたが、条例を知らない市民の方も多く、今はまだ根付かせて
いく段階です。私も啓発活動等をもっと進めて「共に生きるまち茨木」
の推進に努めていきたいです。



← 広報 いばらき

2019年5月号

(現在は IDF = 茨木
障害フォーラム代表で
す)

段差戦隊ジメンジャー(NP0法人ちゅうぶ)&

障害者自立生活センター・スクラム 交流会

障害者自立生活センター・スクラムと段差戦隊ジメンジャー交流会をしました。今回は交流会2回目～4回目(最終回)について報告します。

2回目は、段差戦隊ジメンジャーの活動内容報告と、みんなの困りごと・工夫していることを共有・意見交換しました。(スクラム 酒井さん)車いすユーザーの視点では段差があったらキャスターが引っかかったりして転倒の危険性があり出来るだけフラットの方がいいという意見。(スクラム 尾濱さん)視覚障害者の視点では、車道と歩道の境目がわからないので段差はある程度あった方がよいという意見でした。工夫していることで、特に印象的だったのは、尾濱さんは「物の位置を変えない。」今はBeMyEyesというアプリを使っています。このアプリは24時間誰かが回答してくれるんです。例えば、玄関の模様替えをしたい時に写真を撮って、「もう少しここは色を合わせた方がよいよ。」とか教えてくれたり、どんな服があったか覚えてない時があるので、洋服の写真を撮って「どんな柄ですか?」とかも説明してくれる。それから食品の賞味期限とかも教えてくれて便利になりました。と話してくれました。

交流会3回目 大正区バリアフリー調査

4 チームに分かれて調査しました。車いすユーザー(電動、手動)、聴覚障害、視覚障害、内部障害様々な障害種別の人が参加しました。

①Osakametro長堀鶴見緑地線ドーム前千代崎駅:酒井、西川



阪神なんば線ドーム前千代崎駅
階段の段差の色を変えてほしい
同じ色で見にくい。



エレベーターへの案内図

本来は右側の看板のルートを進むと、すぐに辿り着けるが看板の案内は全て左方向を指し示しており車いすユーザーは信じて進むと遠回りのルートで行くことになる。

じえいあーるたいしょうえき かん やましただいすけ まつくら
② J R 大正駅:姜、山下大祐、松倉

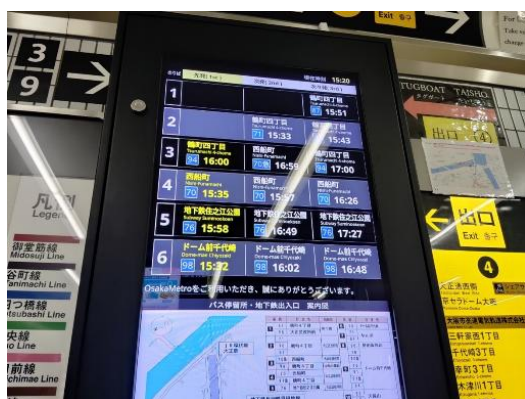


かいさつない
改札内にあるバリアフリートイレいたずら
が多いため7:00-9:00の間は使えない
ようになっています。



かいさつがい だんさ
改札外の段差
段差の部分が分かりにくく、危ないと感じました。

お お さ か め と ろ な がほりつる みりよくちせん たいしょうえき お は ま な が い し よ り な がいたかお すぎはら
③Osakametro長堀鶴見緑地線 大正駅:尾濱、長井志代里、長井隆夫、杉原



たいしょうえきかいさつ そと あんないず
大正駅改札の外にある案内図タッチパネル
になっているので、視覚障害者は、タッ
チパネルが、どこにあるかわからないし、
お 押せません。

ほか かんそう ほどろ だんさ たか
その他の感想としては、歩道の段差の高さを
そんなに気にしたことがなかったけど、ジメ
ンジャーのものさしで測ってみて、結構、段差
が高いなあと思いました。(尾濱)



けんばいき お い ち
券売機のボタンの押しやすさや位置
などをチェックしています。点字の凹凸が
なくなってきた読みにくいです。

④メトロ遊歩道、公園のバリアカー：前田、森園、鶴羽



遊歩道前の東側

ポールが立っている所の歩道は道路が斜めになっています。僕は体幹が不安定なので、身体が倒れそうになってしまいます。(鶴羽)



ポールとポールの間は電動車いすでは通れなかったで、一番、端を通行しなければいけません。(森園)

○交流会4回目 大正区バリアフリー調査報告会 @ ちゅうぶ

交流会最終日は、スクラムの方にも、ちゅうぶに来ていただいて、大正区バリアフリー調査の報告会をしました。

交流会(全4回)を通しての感想

・楽しい活動にお誘いいただきありがとうございました。ジメンジャーのみなさんの段差やバリアフリーに対する熱い思いを知ることができてよかったし、スクラムも、そこに混ざれて幸せな時間でした。またいろいろやりたいですね。

・今回の交流会では、さまざまな障害種別の方に参加してもらえて、障害によって困る視点・工夫していることが違うんだと再認識できました。やっぱり、障害者が街に出て、バリアフリーチェックをすることは大切なことだと思いました。

・スクラムさんとの交流は困りごとや工夫していることで話したり、普段は歩かない大正区の街のバリアが知れたり、新しい発見ができて楽しい交流になりました。インターホンの音の代わりに光で伝える機械のことやカメラで撮ったものを音声で知らせるアプリがあるなど新しいことが知れて面白かったです。

・(報告会に参加した感想)遊歩道を下った所の段差や、J R 大正駅前段差など分かりにくい所があるので、車いすだけでなく歩行者にも危険だと感じました。できるだけなくしてほしいです。

・車いす使用者、視覚、聴覚など異なる障害を持つ方が集まり、いろんな意見交換が出来たのは良かったと思います。それぞれに合った配慮をどうすればいい？など改めて知る機会でもあり、ちゅうぶでも、もっと、どの障害に対しても、より良い空間づくりのためにも合理的配慮、支援が出来るようにしていけたら…。と思いました。



バターナッツクッキング

読者の皆様おひさしぶりです。菜園日記のほうは新年度の開始を審議予定です。続報にご

期待ください。今回は偶然にも長居公園でバターナッツをお見かけして、オフラインでは

初めてみたので興奮して3つも衝動買いしてしま

いました。(笑)遅くなって大変申し訳ございません

がバターナッツを調理した時の様子をここに執筆し

たいと思います。形は非常に細長く瓢箪に近い

形をしています。果肉の色は巷のかぼちゃより濃

い橙で、果皮の色は巷のかぼちゃと異なり薄いベージュです。調理方法は極めてシ

ンプルにレンジでチン！してそのまんまいただきました。まずは素材の味を確かめるため

調味料でまったく味を変えずにいただき、その後はキャラメルに酷似したパッケージの

加塩バターを添えていただき、最後にマッシャーで潰してパウンドケーキにして美味しく

いただきました。



バターナッツ栽培についても『来年度挑戦したい!!』と強

く感じましたし、『機会があれば、またバターナッツを食べ

てみたい!』と感じました。バターナッツ栽培につきまして

は気候の安定を待ってから兼務している菜園日記へ掲載する

予定にしています。どうか続報にご期待ください!!!

きど みち お へ や 木戸通雄の部屋

せいしゆん
『～青春プレイバック～』



きど みち お へ や
木戸通雄の部屋

きど 19歳、昭和57年4月26日、滋賀県大津
陸上自衛隊第2教育団入隊から3か月後、兵庫県
伊丹陸上自衛隊後期教育隊。3か月後、第36
普通科連隊第3中隊小銃小隊一般部隊配属まで
の、10代20代までの青春時代がよみがえってき
た。

最初の入隊式では代表の2等陸士に続き、木戸
が班長に申し出た。宣誓文書を読もう。今でも覚えて
いる。

「宣誓、私は日本の平和と独立を守る自衛隊の
使命を自覚し、一致団結常に特装を養い、事に臨んでは危険を顧みず、もって国民の負託に答えること
を誓います。」



今から40年前、木戸は決して偉いとは言えませんが
自慢ではありませんが一般部隊3中隊では上から数え
て8番目の陸士長だった。

さあ令和7年2月7日金曜日、南港インテックス大阪
モータショー(今年最初のオートメッセ)2025。さあ、
木戸と一緒に読者の皆さんも楽しみましょう！！今日ま
で生きててよかった。

イベントに来ていた海上自衛官ともちゅうぶの通信の
機関紙に掲載しても良いかの許可を得ました。



ことし せんぱつこうこうやきゅう わだい おおさかだいひょうこう きよねん しゅうきたいかい きん きたいかい
今年の選抜高校野球の話題といえば、大阪代表校はゼロ。去年の秋季大会や近畿大会であまり
こうせいせき のこ
好成績を残せなかったのだろう。



き ど おおさかこうげいこうこう ていじせいなんしき
木戸のいた大阪工芸高校の定時制軟式
やきゅうぶ ぜんにちせい こうしきやきゅうぶ やく ねんまえ
野球部も全日制的硬式野球部も約12年前
につぶ ころげいこうこう じょしせいと
に潰れてなくなった。工芸高校は女子生徒が
ふ だんしせいと すく えいきょう かんが
増え男子生徒が少なくなった影響だとも考
えられる。

き ど こうこう ねん なんしきやきゅうぶ にゅうぶ
木戸は高校2年から軟式野球部に入部。
なんしきやきゅうぶ しやうこ
しかし軟式野球をやっていたという証拠は、
こうこう ねんせい とくさいしや さいご きゅうじやうい
高校4年生の時最初で最後の球場入り、
おおさかししよくいんきゅうじやうべつめい きゅうじやう
大阪市職員球場別名 あびこ球場 で
てんのうじしやうぎやう はいしやふかつせん けつ か ま
天王寺商業との敗者復活戦、結果は負けた
き ど るいだ う
が木戸は2塁打を打った。

しやしん も
その写真はなく、持っているのはただ野球部の集合写真だけになった。
やきゅうぶ よ か どうあ ちからお こうはい か
野球部の寄せ書き、胸上げに力惜しまぬ後輩たちへと書かれ、よその学校との試合日などを書いた
たいせつ しきし ねんまえ ひ ご さい き ど やぶ す うしな
大切な色紙を16年前引っ越しの際、木戸がイ〜となり、破って捨ててしまったか失った

しん しょうわ ねんなつ あき ていじせいつうしんせいこうこう ぜんこくたいかいしゅつじやういっぽてまえ めいじじんぐうきゅうじやう
信じられないが昭和56年夏か秋の定時制通信制高校の全国大会出場一步手前、明治神宮球場を
もくぜん ぜん とうくしや なか むかし にっぽん らいにち かんたく
目前に、——また読者のみなさんの中には、昔の日本ハムファイターズの来日していた監督のように
「信じられな〜い。」か木戸の妄想だと考 える人がいると思いますが——仮に相手校をE高校とし
ましよう。

えむくん みぎ いた せんぱつ
うちのピッチャーM君が右ひじを痛めていて先発ピッチャーにな
き ど な の で なつ こうしえん で にほんいちたま はや
んと木戸が名乗り出て(夏の甲子園に出る日本一球の速いピッチャー
がいたら大阪一投げる球が速い木戸もいる)E高校のバッター
は木戸のスローボールにタイミングが合わずバットを早く振りすぎ
れんぞくさんしん おも てんかい じゅんめ じゅんめ き ど いーこうこう
連続三振、思わぬ展開へと2巡目か3巡目には木戸もE高校のバ
ッターに読まれ、だんだん木戸もE高校バッターにつかまり、マウン
ドをM君に明け渡すことになった。

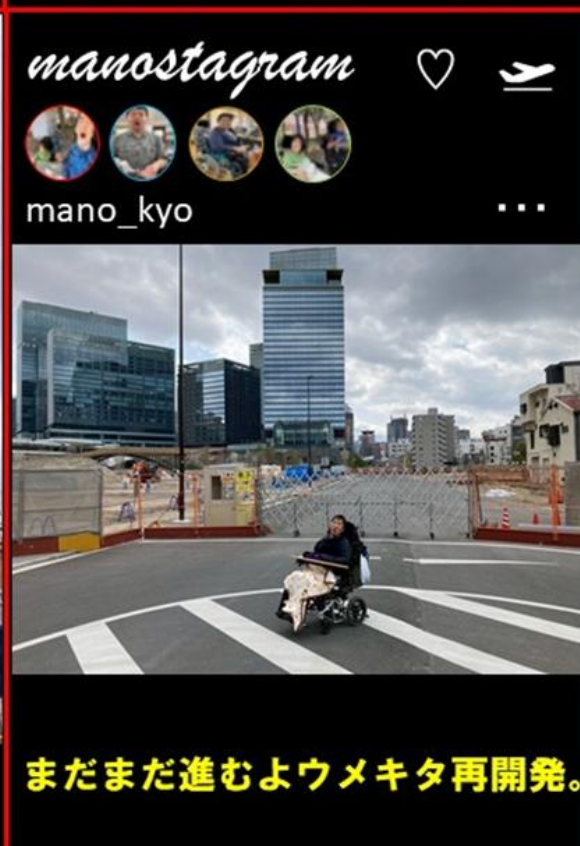
かい けいていくん か
7回か8回木戸はピッチャーをKT君に変えようとしていたのだ
が、M君がボール球ばかりの良くないピッチング、俺で行くという
がんこ かんが かた め まえ えぬく いーこうぎやうこうこう おおさかいち き
頑固な考え方のまま、目の前でN区のE工業高校が大阪一に決
まり全国大会に出場した。ナイター戦お疲れ様でした。

ことし せんぱつこうこうやきゅうこうしえん ぜんにちせいこうこう
それにしても今年の選抜高校野球甲子園での全日制高校の
こうしきやきゅうぶ ねん こうしえん かえ な らだいひやう かいめ
硬式野球部では3年ぶりに甲子園に帰ってきた奈良代表27回目、
てんりこうこうこうしきやきゅうぶ がんば
天理高校硬式野球部がよく頑張っていた。

き ど さい てんりきやうしゅうようか にゅうしん てんり かみさま ゆうき がつこう きたい ぶんせき き ど
木戸も24歳で天理教修養科に入信。天理の神様、勇気をアリガトウ。5月号へ期待。(文責:木戸)



【マノスタグラム ウメキタ外出の様子を一部紹介。】



きょうりよく か い ひ

きょうりよくしやめ い ぼ

協力会費・カンパ協力者名簿

たかい たけし さん 高井 毅 さん もりぐち のりこ さん 森口 敬子 さん	いずみし (和泉市) せんなんし (泉南市)	えぬびーおーじょいふる NPOジョイフルさつき さん (西成区)
--	---------------------------	-------------------------------------

がつ にちげんざい
3月31日現在

きょうりよく
ご協力ありがとうございました (担当: 安東)

「ハルガキタ」



いや、この中でほんとに^{はる}と関係あるのは、ギリ、^{ハルマキ}位だね。

※^{はるまき}春巻

～元々は、立春の頃に新芽が
出た野菜を具材にして
作られたところから「^{はるまき}春巻」
と名付けられた。

※あべの^{ハル}カス

～古語の「晴るかす」に由来

※関空特急はるか

～「はんなりと」と「^{はるか}空」を
連想して列車名となった

4月1日、きょうから新年度

青おにくん:「緊張の新入学や初出勤って人もいるだろうね。同期には負けたくないとかってあるよね」

赤おにくん:「ボクは誰にも負けたくないよ、なぜなら初めから勝負してないから、勝つものもないのさ」

青おにくん:「いや、桃太郎と一寸法師と炭治郎には負けたよね」

赤おにくん:「精神面の話をしているの!」

青おにくん:「新人の皆さん、これからきっと壁にぶつかるでしょう、乗り越えられたいけれど、乗り越えられなくてもいいよ、^{かべ}壁は迂回せよ」とい
いう言葉(by月亭八方)もあるしね。でも相談してね、まあ、ポチポチといきましょう!」



2025年4月～5月 スケジュール		
4月1日	火	～9日(水) 通所花見。4日間、いろんな団体と桜ノ宮、大阪城公園、八戸ノ里公園、千島公園・・・です
5月10日	土	11日(日) ボムハウス喀痰吸引等(3号) 研修@おおさかひがし
5月16日	金	「沈黙の50年」(強制不妊手術記録映画)+講演 13時半～15時25分@府立福祉情報コミュニケーションセンター
5月18日	日	障大連第32回総会 13時半～16時半@中央区民センター(今回は記念講演はありません)
5月24日	土	25日(日) 31日(土) ちゅうぶ重度訪問介護講座@ちゅうぶ
6月7日	土	NPOちゅうぶ総会 13時～17時(予定) @ちゅうぶ1階4階

●「出会いと別れ」今年は少し寒さの中の様でしたが4月に入ってやっと暖かな日が続いています。ちゅうぶの通所では大阪の他団体合同で毎回、違う場所で花見をやっています。ちゅうぶの近くの駒川、今川沿いもなかなか綺麗です。東京八王子市のヒューマンケア協会の中西正司さん、西宮メインストリーム協会の下地 勉さん。日本の自立生活運動をけん引されてきた方が相次いで亡くなりました。コロナもありこの間、ひっそりとした小さな葬儀が主流ですが、中には「にぎやかな」「楽しい」お別れもあります。葬儀は亡くなった人をおもう、語り合う会でもあり、残った人の交流の場でもあると思います。ちゅうぶも1984年12月オープンから40年ですが、日本でC I L＝自立生活センター運動が始まって40年。創設に関わったメンバーも当然ながら高齢化し、次の世代へのバトンタッチが進んでいます。ただ障害者をとりまく状況もまったく違ってきています。でも自分らしく生きれない社会自体は変わらないし、障害のあるなしで分けられる社会は続いています。どうバトンを渡すのか、どの団体も試行錯誤しています。(いしだ)

●母がアルツハイマー認知症になりました。3年前からの難病も再発しました。独居生活が無理となり、ショートステイをつなぐ形で特養に入りました。もう帰る事はない母の部屋を片付けています。祖母の荷物もたくさん残っていました。最近引っ越した私の荷物も合わせ、三世代の荷物を片付けています。三世代それぞれの執着が、残された物たちを通して、私に迫ってきています。物を手放せ、執着を手放せ、我への執着を手放せ…。私は死ぬ間際になって、自分の命を手放せず苦しむでしょう。そんな私に、持っている物、執着やこだわり、喜怒哀楽に表れる自己愛を、少しずつ手放していけると、残された物たちが私に日々教えているようです。必ず来る人生の幕引きに向けての、修行のように思います。そして最後の最後まで手放せないのは、人に対する愛着かと実感しています。#自己滅却#忘記利他#利他とは#中動態#与格#妙好人#行不軽#龍樹#釈徹宗#若松英輔(とみた)

●「本号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。今回の特集では万博内覧会について深く掘り下げましたが、いかがでしたでしょうか？読者の皆様にとって少しでも新たな発見や気づきがあれば幸いです。次号もさらに充実した内容をお届けできるよう努めますので、引き続きよろしく願いいたします・・・？」編集後記の順番が回ってきたものの内容に困り、チャットGPTに聞いてみましたが、この場にはふさわしくなかったですね。質問の仕方をもっと研究したいです。すごい時代になったものだと思うと同時に、この世界に生きているだけでもすごいことだなと思います。私すごい！みんなすごい！（なかお）

【東住吉区障がい者基幹相談支援センター】
【自立生活センター・ナビ】
〒546-0042 東住吉区 西今川 2-3-8
でんわ = 06 (6760) 2671
ファックス = 06 (6760) 2672



【障害者活動センター 赤おに】
〒546-0031 東住吉区 田辺 5-6-10
でんわ = 06 (6623) 7300
ファックス = 06 (6657) 5010

【グループホーム・リオ】
〒546-0032 東住吉区 東田辺
2-21-21
でんわ&ファックス
= 06 (6608) 5244

【ヘルプセンター・すてっぷ】
NPO法人ちゅうぶ 2階
でんわ = 06 (4703) 3741
ファックス = 06 (6628) 0271
【障害者活動センター 青おに】
NPO法人ちゅうぶ 1階
でんわ = 06 (4703) 3742
ファックス = 06 (4703) 3743

編集：特定非営利活動法人
【NPO法人 ちゅうぶ】

〒546-0031
大阪市東住吉区田辺5-5-20
でんわ=06 (4703) 3740
FAX=06 (6628) 0271

ホームページ=https://npochubu.com/
メールアドレス=chubu@npochubu.com
郵便振込口座：00960-6-313427
通信 定期購読料＝1年間2,000円